

## 第3学年\*組 国語科学習指導案

指導者 佃 さくら

1 単元 「ぼく・わたしの民話びょうぶ」をつくってブックフェアを開こう 教材名「三年とうげ」

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、『ぼく・わたしの民話びょうぶ』をつくってブックフェアを開こうと題し、自分のお気に入りの民話や昔話を取り上げ、理由を明確にして「民話屏風」で紹介することを設定した。登場人物の心情曲線を活用して登場人物の気持ちの変化を読み取り、『ぼく・わたしの民話びょうぶ』に表す。心情曲線を使うことで、登場人物の性格や気持ちの変化を表す叙述に着目して読み進められるようにする。また、自分が気に入った理由をはっきりさせて、その民話や昔話の魅力を説明する。「『ぼく・わたしの民話びょうぶ』をつくってブックフェアを開こう」を単元を通して位置付けることで、主体的に作品のおもしろさを味わったり、友達との交流を通してそれぞれの感じ方の違いについて気付いたりすることができる。さらに、並行読書の環境を整えることで自分の紹介したい本を進んで読んだり想像を膨らませて読んだりできるようにする。

以上のことから、本単元でねらう「C 読むこと」の指導事項「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」を実現するのにふさわしい言語活動である。と考える。

3 単元について

(1) 児童の実態 (男\*人, 女\*人, 計\*人) 実態調査 (調査日: 平成\*年\*月\*日実施)

調査・質問内容	調査結果
① 今までどんな民話や昔話を 読んだことがありますか。 (国語への関心・意欲・態度)	おむすびころりん, おおきなかぶ, スーホの白い馬, 浦島太郎, 桃太郎, 金太郎, いっすんぼうし, 力太郎, つるの恩返し, かちかち山, 三枚のおふだ, たのきゅう, かぐやひめ, ジャックと豆の木, 赤ずきん, シンデレラ, おやゆび姫など, 全員5つ以上回答
② 登場人物の気持ちの変化を 叙述を基に想像することが できる。(読む能力)	・自力でできる *人 ・アドバイスをもらいながらできる *人 ・教師の支援によりできる *人
③ 様子を表す言葉にはどんな ものがありますか。 (言語についての知識・理解・技能)	ひとりぼっちになる, うんとこしょどっこいしょ, うれしそう, 悲しそう, おもしろそう, 大きい, 小さい, 赤くなる, 急いでいる, 急に走る (未回答の児童 *人)

本学級の児童は、音読や読書に意欲的に取り組んでいる。朝の読書タイムでは、進んで本を選び、集中して本を読んだり、昼休みの本の貸し出しを楽しみにし、積極的に活用したりしている児童が多い。児童の実態調査からも、全ての児童が5冊以上の民話や昔話を読んだ経験があり、小さい頃から読み親しんできたことが分かる。

1学期に学習した「もうすぐ雨に」では、ほとんどの児童が、物語の事件が起こった前後の主人公の気持ちの変化を読み取り、変身ボックス(本の紹介のため

「平成26年度 学力診断のためのテスト」から

調査内容	正答	誤答	無答
① 叙述に即して人物の様子を読み取ることができる。 (そのことが分かる一文の抜き出し)	*人	*人	*人
② 叙述に即して人物の様子を読み取ることができる。(適当な行動の書き出し)	*人	*人	*人
③ 場面の展開をとらえることができる。	*人	*人	*人
④ 書かれている内容をとらえることができる。	*人	*人	*人

の立体的なパンフレット)を使って説明することができた。しかし、事件が起こった前後の主人公の気持ちがどのように変わったのかをきちんと理解して自力で進められた児童は半数で、半数の児童は、教師や友達のアドバイスをもらわなければ完成することができず、主人公の気持ちの変化を読み取る力が十分だとは言えない。

また、平成26年度学力診断のためのテストでは、叙述に即して人物の様子を読み取る問題に対して、およそ半数近くの児童が不正解であり、登場人物の会話や行動などの叙述を基に人物の様子を読み取る力に課題があることが分かった。また、場面の展開を捉える、書かれている内容を捉える問題に対しても4分の1の児童が不正解であった。様子を表す言葉については、会話や行動を表す言葉は分かっても、様子を表す言葉が何か理解をしている児童は少なく、動詞や名詞に言葉が付くことによって、登場人物の様子を表す言葉になり、登場人物の気持ちを想像することができる手立てになると分かっている児童は、ほとんどいなかった。

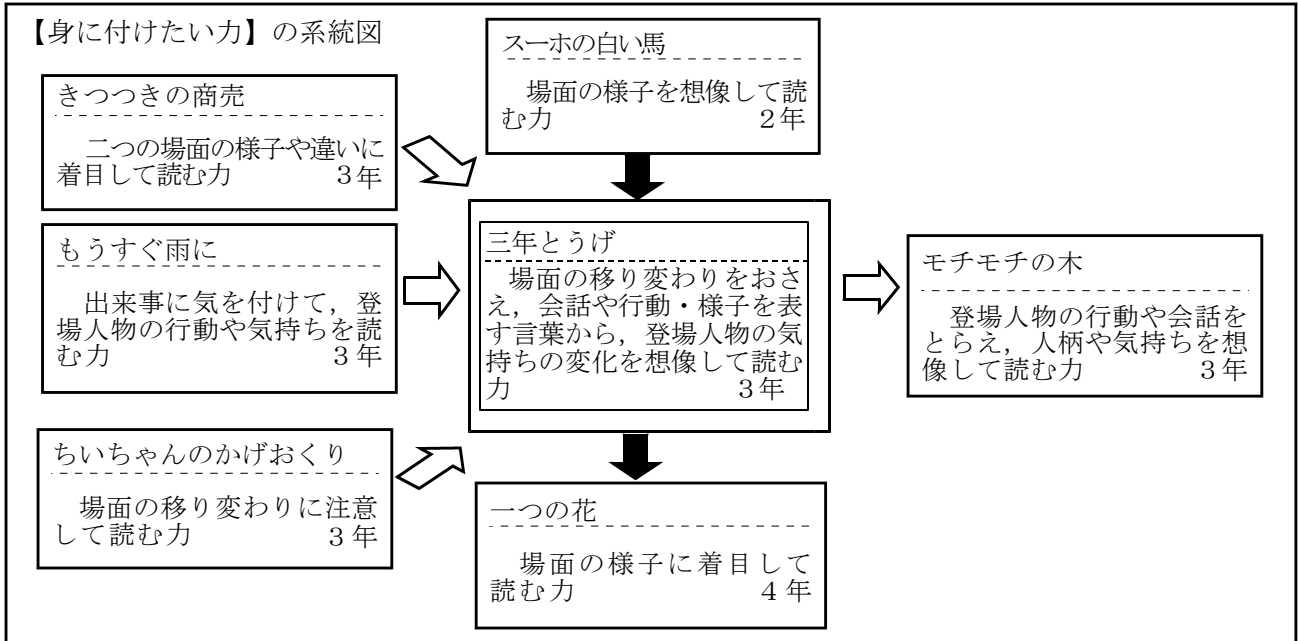
以上の実態から、場面の様子や登場人物の会話や行動、様子を表す言葉をしっかりと理解させるとともに、本文の叙述に着目しながら想像して読む力を付けさせる必要がある。

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領の「C 読むこと」の指導事項「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むこと。」「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」に基づいて設定したものである。

本教材「三年とうげ」は、朝鮮半島に伝わる民話である。「ため息が出るほど」魅力的な峠でありながら、人々が恐れる言い伝えがあり、読み手を引きつける。民話独特の語り描写、言い伝えや歌、たくましい人々の大らかな生き方などを味わえる作品である。

また、展開が非常にシンプルなため、民話のおもしろさについて考え、なぜおもしろいと感じたのかについて自分の考えをもちやすくと考える。この単元での言語活動を通して、新たな発見をし、自分の考えを広げたり深めたりしていくのに適した教材でもある。



(3) 指導観

本単元では、「『ぼく・わたしの民話びょうぶ』をつくってブックフェアを開こう」という言語活動を単元を貫いて位置付ける。いろいろな国の民話や昔話には、同じような表現や同じような場面が繰り返され、その積み重ねが読者を引きつけるという、民話独特の構造がある。そういった民話や昔話の特徴にも着目しながら、「おもしろい」と思うところを紹介する言語活動に取り組んでいきたい。

第一次で、「図書館の方によるブックトーク」を行い、いろいろな国の民話や昔話があることを知り、民話や昔話に興味をもたせる。そして、教師自作の「ぼく・わたしの民話屏風」を紹介し、児童が選んだ本でつくることを知らせ、つくってみたいという思いや学習の見通しをもたせる。

第二次として、「三年とうげ」の叙述を基に情景やあらすじを考え、話の大体をつかませる。次に、おじいさんの会話や行動・様子の叙述からおじいさんの心情の変化を心情曲線で表す。そして、物語のお気に入り場面とその理由、印象に残った文を書かせ、自分の考えをはっきりもって友達との交流会に臨み、人によって感じ方が違うことに気付くようにさせたい。

第三次では、第二次で学んだことを生かして、自分で選んだ民話や昔話で「ぼく・わたしの民話びょうぶ」をつくる。そして、ブックフェアを開き、いろいろな民話や昔話のおもしろさ、人によっていろいろな感じ方があることなどに気付かせたい。

4 目標

- 民話や昔話のおもしろさを見付けながら、進んで読書をしようとする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- 叙述を基に、場面の移り変わりや登場人物の気持ちを想像しながら読むことができる。  
(読むこと)
- 民話や昔話を読んで感想を交流し合い、感じ方の違いに気付くことができる。  
(読むこと)
- 文章中で使われている言葉に着目し、言葉は、様子や思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

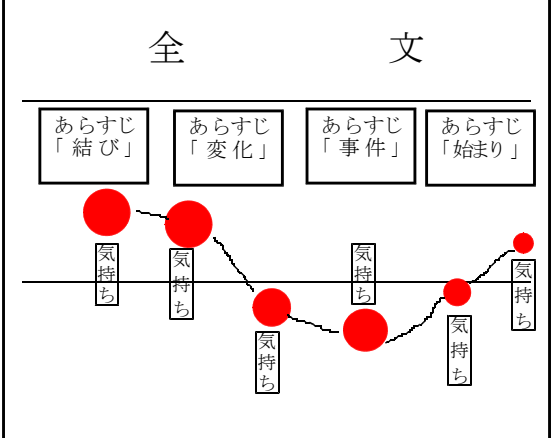
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・民話や昔話の好きなところや心ひかれるところに着目しながら読もうとしている。	・叙述から、登場人物の性格や気持ちの変化などを想像して読んでいる。 ・友達と交流し、共通点や相違点を見付け、感じ方が人によって違うことに気付いている。	・文章中で使われている言葉に着目し、言葉は、様子や思ったことを表す働きがあることに気付いている。

6 指導計画 (9時間扱い)

	学 習 活 動	指導過程における評価規準	
第一次 ①	<p>◆ 学習の見通しをもつ。 課外 世界の民話のブックトークを聞いて世界の民話への関心をもつ。</p> <p>1 学習課題「『ぼく・わたしの民話びょうぶ』をつくってブックフェアを開こう」を設定し、学習計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな国の民話や昔話があることを知り、進んで学習に取り組もうとしている。</li> <li>・教師が提示した「ぼく・わたしの民話びょうぶ」の紹介を通して、自分もつくってみたいという思いが高まり、学習への見通しをもとうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)</li> </ul>	単元を貫く言語活動「『ぼく・わたしの民話びょうぶ』をつくってブックフェアを開こう」
第二次 ⑤	<p>◆ 「三年とうげ」を詳しく読み、「ぼく・わたしの民話屏びょうぶ」を作る。</p> <p>1 場面の展開や三年とうげについて読み取る。 ・あらすじ(はじまり・事件・事件の変化・結び) ・三年とうげについて ・登場人物の性格について</p> <p>2 おじいさんの会話や様子・行動が書かれている所を見付け、色分けしながら線を引く。 ・会話・・・赤 ・様子・・・緑 ・行動・・・青</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の展開や三年とうげについて理解している。 (読む能力)</li> <li>・文章中で使われている言葉に着目し、言葉は、様子や思ったことを表す働きがあることに気付いている。 (言語についての知識・理解・技能)</li> </ul>	
	<p>③ 登場人物の会話や様子・行動を表す言葉から、心情曲線を作って、登場人物の心情の変化をとらえる。【本時】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の気持ちの変化を想像して読んでいる。 (読む能力)</li> </ul>	
	<p>4 「三年とうげ」でおもしろいところや気に入ったところを友達と出し合い、自分の一番のお気に入りの場面とその理由をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と交流し、お気に入りの場面を選び理由を明確にしてまとめている。 (読む能力)</li> </ul>	
	<p>5 「三年とうげ」で、自分のお気に入りの場面を選んだ理由を明確にして、友達と交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お気に入りの理由をはっきりさせて、友達に紹介している。 (読む能力)</li> <li>・友達との交流の中で、自分との共通点・相違点分かり、人によって感じ方に違いのあることに気付いている。 (読む能力)</li> </ul>	
	<p>◆ 並行して読んできた読み物で「ぼく・わたしの民話びょうぶ」を作る。</p> <p>1 並行読書をしてきた中から、気に入りの本を選び、「ぼく・わたしの民話びょうぶ」を作成する。 ・あらすじ(はじまり・事件・事件の変化・結び) ・登場人物の性格について ・心情曲線 ・お気に入りの場面とその理由・心に残った文</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民話や昔話の好きなところや心ひかれるところに着目しながら読もうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)</li> <li>・自分の読んだ本の主人公の心情曲線を書き、登場人物の気持ちの変化や心情を想像して読んでいる。 (読む能力)</li> </ul>	
第三次 ③	<p>3 『ぼく・わたしの民話びょうぶ』を使って、友達と世界の民話を紹介するブックフェアを開く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックフェアをする中で、いろいろな民話があることが分かり民話や昔話のおもしろさを見付けている。また、人によって感じ方に違いがあることに気づき、これからの読書への関心を高めている。 (国語への関心・意欲・態度)</li> </ul>	

7 本時の学習

- (1) 目標  
登場人物の会話や様子・行動を表す言葉を基に、登場人物の気持ちの変化を想像して読むことができる。
- (2) 準備・資料  
学習計画表・学習時計・グッドモデルの民話屏風・挿絵・学びの道しるべ・心情曲線シート・心情の高まりを表す円のカード・短冊・振り返りカード

学習内容・活動	主な支援・評価の観点と方法
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時の学習について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>会話や様子・行動を表す言葉から、おじいさんの気持ちの変化を読み取ろう。</p> </div> <p>2 一人でおじいさんの行動や様子を表す言葉を探し、その時の気持ちを確認する。</p> <p>3 会話や行動・様子を表す言葉から、おじいさんの気持ちをグループで考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① おじいさんの気持ちを考える。          ・円カードを決める。          ・場所を決める。          ・短冊におじいさんの気持ちを書く。</p> <p>② おじいさんの気持ちの変化を考えながら、円カードを結んでいく。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 5px 0; text-align: center;"> <p>全 文</p>  </div> <p>4 全体でおじいさんの気持ちの変化について、一つのグループの心情曲線を使って確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① 1つのグループの心情曲線をホワイトボードに貼る。          ② どういう理由でおじいさんの気持ちを想像したか、発表する。          ③ 他のグループは、自分たちの心情曲線と比べ、気付いたことを発表する。</p> </div> <p>5 本時の学習のまとめをし、振り返りをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・おじいさんの行動や様子を表す言葉からおじいさんの気持ちが想像できた。          ・友達と作った心情曲線を見て、おじいさんの気持ちが変わっていくことが分かった。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画表を提示し、1時間の流れが分かるように見通しをもたせることで学習意欲を高める。</li> <li>・前時までに読み取ってきたおじいさんの行動や様子を表す言葉を出し合って心情曲線を作り、おじいさんの気持ちの変化を読み取っていくことを確認する。</li> <li>・前時までに読み取ったおじいさんの行動や様子を表す言葉を基に、おじいさんの気持ちを想像したノートをもう一度確認する。</li> <li>・交流は話しやすい雰囲気を作るため、3人1グループで編成する。</li> <li>・1枚の民話屏風の上に全文シートを貼ったものを用意し、前回行ったグループで話し合わせる。</li> <li>・グループで出し合ったおじいさんの会話や様子、行動を表す言葉の中で、必要なものだけを取り上げるようにする。</li> <li>・気持ちの大きさを表す円のカードを用意し、おじいさんの気持ちの変化や高まりを考える手立てとする。</li> <li>・心情曲線の真ん中の線を平常心とし、おじいさんの気持ちの高さについて全員で話し合う。短冊は、心情曲線シートにのりで貼るように助言する。</li> <li>・「心情の高まりを表す円」のないところは、おじいさんの気持ちを考えながら、「心情の高まりを表す円」を結んでいくように助言する。</li> <li>●自分の考えがまとまらない児童には、友達の意見を聞き助言をしてもらうことで、おじいさんの気持ちを想像できるようにさせる。</li> <li>○前時までにに行った個人のノートをグループで見せ合いながら、おじいさんの会話や行動、様子を基に、おじいさんの気持ちを考えて短冊に書くようにする。</li> <li>◎友達と話し合いながら心情曲線をつくることで、登場人物の気持ちの変化を想像をふくらませて読み取るようにする。</li> <li>◎登場人物の行動や様子を表す言葉を基に、おじいさんの気持ちの変化を想像して読んでいる。 (読む能力)</li> </ul> <p style="text-align: center;">【話し合い・心情曲線シート・振り返りカード】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おじいさんのどの会話や行動・様子から想像してどのようにおじいさんの気持ちを考えたのか言えるようにする。</li> <li>・曲線の動きだけでなく、「心情の高まりを表す円」の大きさや高さなど、自分たちの心情曲線と比べさせる。</li> <li>・「心情の高まりを表す円」の大きさや位置が同じ場合でも、その理由について考えさせる。</li> <li>・三次では、自分の選んだ本の心情曲線を作ること知らせ、本時で学習したことを生かすことを意識させる。</li> <li>・振り返りの視点をはっきりさせて、本時のめあてに対する分かったこと、気付いたことなどを書かせる。</li> <li>・次時の学習について簡単にふれ、意欲の喚起を図る。</li> </ul>

○進んで考えられる児童への手立て

●遅れがちな児童への手立て